



# 稲作管理情報 第4号

うるち玄米1等比率90%以上を目指して！

平成23年7月8日  
高岡市農業協同組合  
高岡農林振興センター

## コシヒカリの生育状況

- ・草丈は近年並みとなっています。
- ・茎数は昨年より多いものの、近年より少なくなっています。
- ・葉齢は近年並みからやや早めに推移しています。葉齢の進みから予測すると、幼穂形成期は近年並みの7/14頃と推定されます。

コシヒカリの生育状況(5月中旬植え、7/4調査)

	草丈 (cm)	茎数(本) 株あたり	葉齢 (葉)	葉色	幼穂 形成期	出穂期
H23	62.5	23.2	445	11.4	4.2	(7/14) (8/6)
H22	63.3	22.1	415	11.2	4.4	7/14 8/6
近年	61.0	26.5	495	11.2	4.3	7/14 8/6

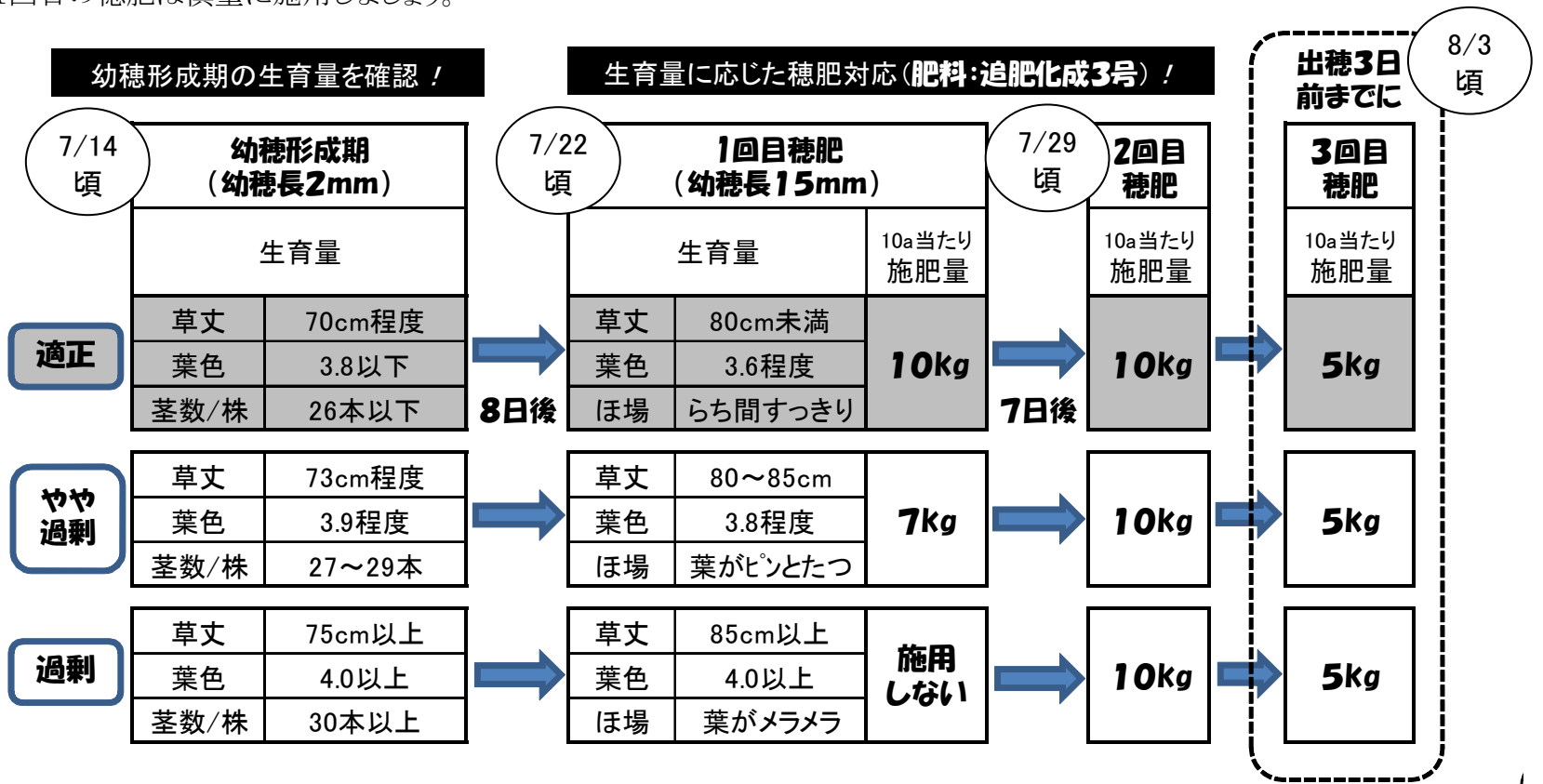
※H23の()内は推定値

高岡農林振興センターのホームページで、毎週の生育調査結果を掲載しています。

## コシヒカリの穂肥

### 1. 分施肥体系の場合

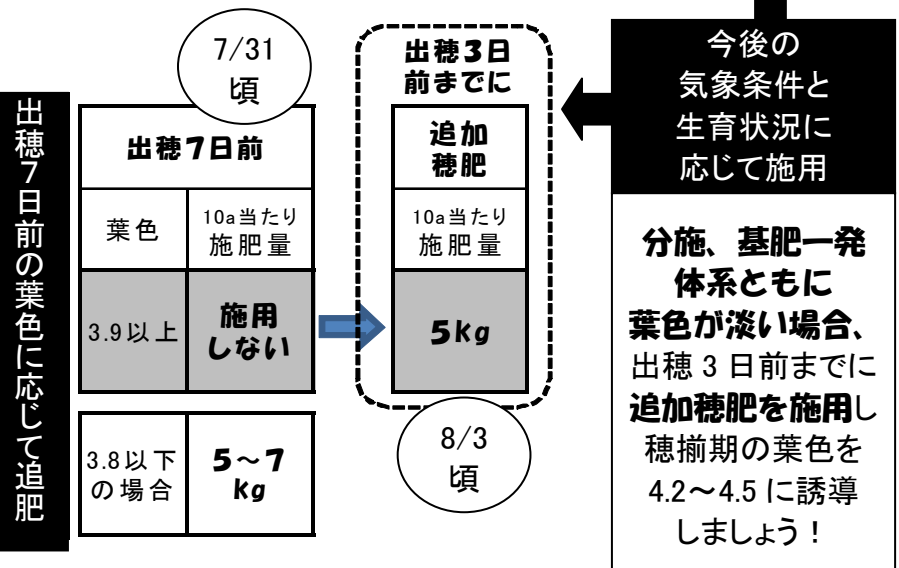
- 幼穂形成期は5月15日植えで7月14日頃です(→出穂期は8月6日頃)。
- 地域やほ場間で生育にバラツキがみられるので、生育状況や今後の気象経過を見極めて、1回目の穂肥は慎重に施用しましょう。



### 2. 基肥一発肥料施用体系の場合

幼穂形成期以降...

- ・これから多くの肥料が溶け出していきます。
- ・葉色が薄く見えても、安易な追肥はやめましょう。
- ・葉色が濃い場合には、田干しを行いましょ。



裏面には『病害虫防除』と『今後の水管理』があります。

# 病虫害防除

【コシヒカリの防除時期、薬剤、散布量】 5月15日植えの出穂期を8月6日頃と推定した場合

市街地や周辺に野菜等の専門畑がある場合は粒剤を散布しましょう。

散布時期	農薬名	散布量 (kg/10a)	対象
出穂5日前(8/1頃)	イモチエーススタークル 1 キロ粒剤	1kg	いもち病 カメムシ類など

1回目～2回目までは10日以上空けないこと!

散布時期	農薬名	散布量 (kg/10a)	対象
1回目 出穂3日前(8/3頃)	ビームスタークル粉剤5DL	4kg	いもち病 カメムシ類など
2回目 穂揃期(8/10頃)	キラップ粉剤 DL	4kg	カメムシ類など

## 【てんたかくの防除時期(5/5頃植え)】

調査ほのてんたかくの幼穂形成期は6月30日でした。出穂期は7月23日頃と予想されるため、  
**粒剤 7月20日頃、粉剤 1回目:7月26日頃、2回目:8月2日頃** が防除適期と推定されます。  
 ※詳しくは稲作管理情報3号をご覧ください。

## 【随時防除】 ※発生状況に応じて防除しましょう。

	防除適期	農薬名	散布量 (kg/10a)	備考
紋枯病	早生 出穂の14日前頃	モンセレン粉剤 DL	4kg	曇雨天が続くと発生しやすい。
	中生 出穂の10日前頃			
稲こうじ病	出穂の10～15日前	ブラシン粉剤 DL	4kg	常発地や前年発生の多かったほ場では、発生が多くなる可能性が高い。



農薬は、農作物の収量や品質を高く安定的に確保するために貢献していますが、人や動物の健康保護と生活環境の保全のためにも安全かつ適正に使用する必要があります。

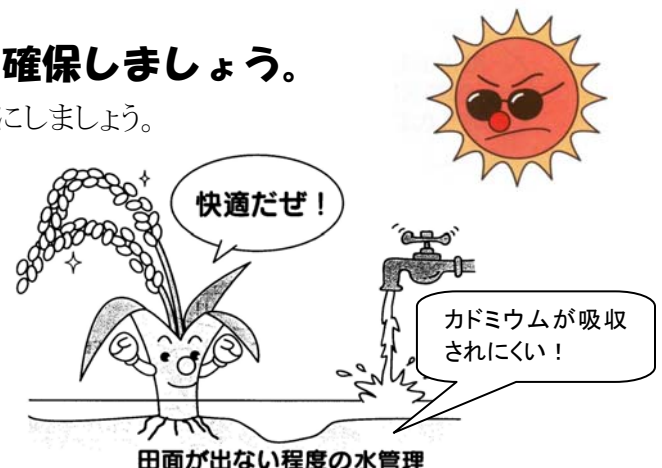
- 農薬使用のポイント**
- ① 周辺住民等への事前周知
  - ② 容器、包装にある表示事項の遵守
  - ③ 長そで、マスク等の着用
  - ④ 農薬の飛散防止
  - ⑤ 使用履歴の記帳と適正な保管
  - ⑥ 空容器や使用残農薬の適正処理



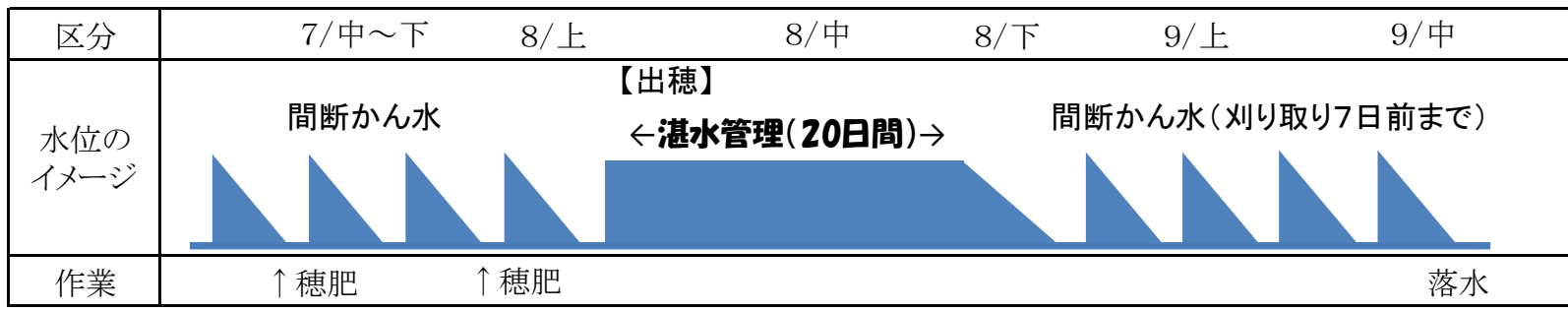
稲こうじ病

## 今後の水管理のポイント

- ① **出穂までは間断かん水により、根の活力やほ場の硬さを確保しましょう。**  
粘質田、排水不良田や葉色が濃く生育が旺盛なほ場では落水期間を長めにしましょう。
- ② **フェーンが予想される時は、事前に入水しましょう。**
- ③ **出穂後20日間は、湛水管理を徹底しましょう。**  
稲体の活力維持やカドミウムの吸収抑制のために重要です。
- ④ **収穫の7日前まではしっかり間断かん水を!**



水管理と作業の組み合わせの例



## 農作業事故や熱中症には十分注意しましょう!